

令和5年度 第10回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年9月24日（日）10時30分～16時00分
- 2 場 所 総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 【青森市】子ども会議委員6名、事務局3名
【松本市】まつもと子ども未来委員会16名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) オンライン交流会と子ども会議フォーラムに向けて
(2) 松本市とのオンライン交流会
 - 1 開会
 - 2 自己紹介
 - 3 お互いの市を紹介
 - 4 クイズ
 - 5 活動発表・質疑応答
 - 6 感想発表・閉会

5 開催概要

今年度初めての他都市とのオンライン交流会を行いました。

オンライン交流会と子ども会議フォーラムに向けて

初めに、松本市とのオンライン交流会に向けて、役割決めを行いました。青森市の紹介、クイズの出題、活動紹介の役割があり、みんなが積極的に立候補したため、スムーズに決めることができました。司会はサポーターにお願いする予定でしたが、欠席のため事務局が行いました。それぞれ個人で練習し、本番に備えました。

次に、子ども会議フォーラムに向けて、サブタイトル決めと提案質問内容について話し合いました。サブタイトルは、事前に考えてきてもらったアイデアをもとに新しい案も出し、多数決で候補を絞りLINEで全員にアンケートを取って決定することにしました。

提案質問内容については、今年度のこれまでの活動を振り返りながらみんなでたくさんの案を出しました。

松本市とのオンライン交流会

お昼休憩終了後、通して練習を行いました。時間になったので、オンラインに接続し、両市準備が整ったところで、交流会はスタートしました。

開会・自己紹介

司会から交流会の流れなどの説明があった後、自己紹介をしました。学年や名前のほかに、ひとこと「もし〇〇なら～」を発表してもらいました。

青森市では「もしタイムマシンがあったら第二次世界大戦中のドイツに行きたい」や「もし魔法が

使えたら、すぐに登下校ができる瞬間移動の能力を身につけたい」など、松本市では「もし青森市に行ったら、海鮮丼を食べて海に行きたい」や「もし総理大臣になったら子どもが一日中ゲームをできる権利をつくりたい」、「もし魔法が使えたら怖がりやを直してジェットコースターに乗りたい」など、個性あふれる自己紹介となりました。松本市からは「もし青森市に行ったら海に関することをしたい」という意見が多かったのが印象的でした。

お互いの市の紹介

お互いの市の、地理的な話と特産品や観光スポットなど紹介し合いました。違うところも似ているところもたくさんあり、お互いに初めて知ることが多く、とても楽しかったです。

〈青森市〉

青森市は、八甲田山や陸奥湾などの自然に囲まれており、四季折々の景色や温泉、ねぶた祭を楽しめたり、美味しい特産品や観光向けのスポットもあつたりと、とても魅力あふれる市です。有名なりんご、にんにく、ほたてなどの美味しいもののほかに、観光客も楽しめる浅虫水族館やねぶたの家ワ・ラッセなどの施設、18歳までの子どもの権利侵害に関することであれば誰でも相談できる「子どもの権利相談センター」も東北で唯一青森市に設置されています。

青森市で一番おすすめの季節はねぶた祭も参加できる夏です！機会があればぜひ青森の魅力を堪能しにきてください。



〈松本市〉

長野県は、8つの県と隣り合っており、松本市はその長野県の真ん中にあります。松本市は「山の岳都」、「音楽の楽都」、「学びの学都」の「3ガク都」の街です。日本で一番空に近い空港「信州まつもと空港」があり、山のイメージが強い長野県ですが、200～300万年前には広い海がありました。水がとてもきれいなので街の中の水路でニジマスやカワハギを見ることもできます。

有名な食べ物には、そば、味噌、おやきなどがあり、おやきは切り干し大根や野沢菜などが入ったおかず入りの饅頭のようなものです。青森と同じりんごも有名で、「秋映え」「シナノスイート」「シナノゴールド」は「長野県りんご三兄弟」と呼ばれています。伝統工芸品である「松本てまり」や草間彌生さんを初めとする数々の著名人もいます。松本市のことを知ってもらえてとても嬉しいです。



クイズ

次にお互いにクイズを出し合いました。青森市は、子どもの権利のことや青森市のソウルフード、津軽弁についての問題を用意し、松本市は子どもの権利相談室の名前など、松本市に関するクイズを出し、どちらも全問正解者はいませんでした。

クイズで盛り上がり緊張がほぐれたところで、スクリーンショットによる記念撮影を行いました。



活動発表・質疑応答

〈青森市の活動発表〉

今年度の子ども会議では、「もっと魅力あふれる青森市に！」を活動テーマに、もともとある魅力を多くの人に広める「推しを発信し隊」と、魅力をより良くする・新しく作る「Improve Aomori City by children」の2つのグループで活動を進めています。

オシ隊では、「多くの人に広めたいスポット」として ACAC（国際芸術センター）や浅虫地区、「独自の食」として棒パンやおおもり海道そばの魅力を広めるため活動をしています。

Improve A. B. C. では、青森市の「困った」である「低い読書率」や「多いごみの排出量・低いリサイクル率」をより良くするため「おすすめの本の紹介」、「合浦公園でのごみ拾い」や「青森市清掃工場の見学」を行いました。また、私たちが考える「魅力的な青森市」について話し合い、新しい青森市の魅力に気づいたり、魅力を作り出すためのヒントを見つけたりしたいと思います。

また、この交流会を通して「青森市の隠れた魅力を発見したい」と思います。

推しを発信し隊(オシ隊)
公式Instagramを使って**青森市の魅力**
📷 **子どもの目線から発信!**

・もっと広めたい有名スポット
→ACAC(国際芸術センター)、浅虫

・青森市独自の食
→棒パン、おおもり海道そば

ぜひフォロー！
お楽しみします!

【somori.kodomokaigi】

Improve Aomori City By Children (Improve A. B. C.)
もっと魅力的な青森市におかって
より良く・つくります!

・青森市の仮想まちづくり罫
・読書の普及
(おすすめの本や場所の紹介)📖
・ごみ拾い等の実施

松本市から質問が出なかったので、発表に対する感想をいただきました。

- ・青森市清掃工場での発電のことで、足踏みでの発電と工場での発電が10億倍も違うことを聞いて驚きました。そんなに違うということを知ることができてよかったです。
- ・青森市の活動テーマを参考にして、これから活動していきたいと思います。

〈松本市の活動発表〉

まつもと子ども未来委員会では、松本市が行っている取組や、地域の課題について学び、話し合い、自分たちの故郷である松本市のまちづくりについて考えており、私たち第9期は小学生15人、中学生12人、高校生8人の合計35人の委員と、大学生5人がサポーターとして参加しています。第9期のスローガンは「より良くした松本を好きになってもらうために」で、自然豊かな環境など、これまでの松本の良さを大切にしつつ、未来に向かって松本をより良くしていくことで、松本を好きになってもらいたいという思いが込められています。

活動では、毎年市への提言を行っており、今年度は、生活の改善、自然の保護、ボランティア、PRについて関心を持ってグループに分かれて学習を進め、自分たちの考えをまとめています。また、市の広報番組に出演して「松本市の子どもの権利」に関する取組や未来委員会の活動のPRを行ったり、市役所の部署からの依頼により活動を行ったりしています。

まつもと子ども未来委員会とは…？



- ◆ 「松本市子どもの権利に関する条例」に基づいて開催
- ◆ 委員：小学5年～高校3年生
学校、地域、年代を越えて活動しています！
- ◆ 松本市の取り組みや、地域の課題を学び、話し合い、松本のまちづくりを自分たちで考えています



市への提言に向けた活動



- ◆ 自分たちが興味を持った事柄について、学習し、自分たちの考えをまとめる

生活の改善

ボランティア

自然の保護

PR

気になったことについて質問をし、活動について詳しく教えてもらいました。

- ・テレビの広報番組での収録は、市の番組で、子どもの権利相談室のことや11月にある提言の時の発表を行った。
- ・松本市で一番大きい課題は、道が狭いことで、城下町なのもあって昔ながらの道が残っていて、狭い道が多く交通事故や自転車の事故がとても多い。

感想発表・閉会

最後に各市から交流会を終えての感想を発表し、閉会となりました。お互いの市の魅力や活動内容について詳しく知ることができて良かったです。